

お詫びと訂正

『全経簿記能力検定試験標準問題集 上級原価計算・管理会計』第1版第1刷について、以下の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

株式会社中央経済社

記

1. 管理会計編ユニット 16 (180-183 頁) について、以下のとおり修正してご活用ください (赤字部分が修正箇所です)。

(1) について

解答を以下のように修正してください。

(誤)

	1 年度	2 年度	3 年度
①のキャッシュ・フロー	410	550	480
②のキャッシュ・フロー	340	600	580

(正)

	1 年度	2 年度	3 年度
①のキャッシュ・フロー	570	710	640
②のキャッシュ・フロー	500	760	740

解説の後半部分の表を以下のように修正してください。

(誤)

	1 年度	2 年度	3 年度
①のキャッシュ・フロー	570	710	640
運転資本の増加額(控除)	70	-50	-100
②のキャッシュ・フロー	500	760	580

(正)

	1 年度	2 年度	3 年度
①のキャッシュ・フロー	570	710	640
運転資本の増加額(控除)	70	-50	-100
②のキャッシュ・フロー	500	760	740

(2) について

●問題文の修正

<資料>の2 (2)

(誤) ①売却処分価額 200 千円

(正) ①売却処分価額 920 千円

●解答・解説の修正

(2)

① 920 千円

② 276 千円

③ 976 千円

ここでは、耐用年数（投資期間）経過後における機械の処分に伴うキャッシュ・フローへの影響を計算する。①から③を計算するにあたって、3年度末の簿価が920千円（=2,000千円-360千円×3年）となっている。これを利用して、①から③のキャッシュ・フローへの影響は以下のように計算できる。

①の売却処分額は920千円であるため、その金額がキャッシュ・フローとなる。このケースでは、売却処分額=簿価であり、売却処分において損益は発生しないため、税金の金額への影響はない。

②の売却額は0千円であるため、売却処分額自体からのキャッシュ・フローは生じない。しかし、簿価920千円の機械の売却処分が損失920千円生じさせ、その分だけ課税所得計算上の損金が増加する。その結果、税金の支払額が276千円（=920千円×0.3）だけ、投資案を採択しなかった場合よりも減少するので、その分だけキャッシュ・フローが増加する。

③の売却処分額は1,000千円であるため、その金額がキャッシュ・フローとなる。しかし、売却処分において売却益80千円（=1,000千円-920千円）が生じるため、その分だけ課税所得が増加し税金の支払額が24千円（=80千円×0.3）増加する。結果として、キャッシュ・フローは976千円（=1,000千円-24千）増加する。

2. 管理会計編ユニット 18 (188-191 頁) について、以下のとおり修正してご活用ください（赤字部分が修正箇所です）。

(2) について

●解答の修正

(誤) 回収期間 3.06 年

(正) 回収期間 3.24 年

●解説の修正（回収期間の計算）

(誤) 3年 + (20,000千円 - 18,548千円) ÷ 24,488千円/年 = 3.0592年

(正) 3年 + (20,000千円 - 18,548千円) ÷ 5,940千円/年 = 3.2444年

3. 管理会計編ユニット 19 (192-195 頁) について、以下のとおり修正してご活用ください (赤字部分が修正箇所です)。

●問題 1 解答の修正

(誤) 11.12%

(正) 11.57%

●解説の修正

(誤) このとき、比率の性質から $A:B=C:D$ ならば $AD=BC$ となるので、 $142.55 \times (12\% - x) = 106.39 \times (x - 11\%)$ であり、これを解くと x は 0.1157% であることがわかる。ゆえに、IRR は 11.1157% である。

(正) このとき、比率の性質から $A:B=C:D$ ならば $AD=BC$ となるので、 $142.55 \times (12\% - x) = 106.39 \times (x - 11\%)$ であり、これを解くと x は 11.57% であることがわかる。ゆえに、IRR は 11.57% である。

以上